

きらめく笑顔とイキイキしたオーラで強烈な印象を与える、映画コメンテーターのLiLiCoさん。18歳の時に、歌手になる夢を抱いて故郷のスウェーデンから来日し、ほどなくして拠点を浜松に構えることになる。

浜松の芸能プロダクションに所属し、松菱百貨店（当時）の屋上ビアガーデンでデビューした。そこから約2年間、浜松で厳しい下積み時代を送っている。日本語もままならない状態での新生活。遊ぶこともできず、ひたすら歌うことに没頭した日々。LiLiCoさんは当時を振り返り、「とにかく極貧でしたよ」と語りはじめた。



## Success Way スウェーデン>>>東京>>>浜松>>>東京

### PROFILE

映画コメンテーター  
**LiLiCo**  
りりこ

スウェーデン・ストックホルム生まれ。18歳で来日し、1989年から芸能活動をスタート。TBS「王様のブランチ」に映画コメンテーターとして出演。映画、ファッションのイベントMCやトークショー、ラジオ番組、声優など、マルチに活躍。



「出世大名家康くん」を手に、笑顔のLiLiCoさん。



著書『ザリガニとひまわり』(講談社刊)では、浜松時代のおもしろいエピソードもご紹介!

# 明日はもっと弾ける努力

「こうなりたい。こうしたい」という思いをどんどん実現させていく鍵は、わずかな迷いや甘えも振り切って、努力を積み重ねていくことにある。浜松で下積み時代を過ごし、今やさまざまなメディアで活躍中のLiLiCoさんは、まさに女性版の家康公と称すべき人物だ。

「やつてみたいことは、まだ山ほどあります。それを周りの人々にアピールしていました。歌手にはファンクラブが必要だと思い、ラミネートした顔写真を配りまくり、ライブ開催前一週間で500人を集客したこともあります。したよ。」

現在は、お馴染みの映画コメンテーターの一面に加え、培ってきた歌唱力を生かす仕事も精力的にこなしている。

自分の立つステージや状況は変わつても、「夢を叶え、成功させる」という熱き思いは変わらない。「やつてみたいことは、まだ山ほどあります。それを周りの人々にアピールしてチャンスを掴み、私は夢を叶えます。そのための努力だけは惜しません」。努力を貫き通せば、成果も成功も手に入ると自負している。だからこそ彼女は人気者となつた今でも諂ひることなく笑顔と努力を共存させることができるのだろう。「努力して叶えてきたから、また明日は今日以上に努力するだけ」。彼女の生き方には、夢を叶える(=出世)の秘訣が弾けている。

出版印刷からエレクトロニクス部品まで、幅広い事業を展開する凸版印刷。藤田弘道さんは、同社の代表取締役社長、代表取締役会長を歴任し、現在は相談役をつとめている。浜松市で過ごした幼少期は泣き虫で大人しい少年だったという。東大を卒業後、25歳で凸版印刷に入社。最初のターニングポイントは営業の平社員だったところである。取引先の課長と仲良くなり、ライバル会社が受けていた大きな仕事を取ることに成功した。しかし喜びも束の間、翌日取り消しの連絡が。相手が重役に手を回し、圧力をかけてきたのだ。ここで藤田さんは「窓口を押さえる」

# 殻を破り、信じた道を突き進む

入社以来、伝説と称されるほど数々の功績を残した凸版印刷相談役・藤田弘道氏。その意志の強さ、統率力、説得力は、誰もが笑って暮らせる時代を作るため、天下獲りへ邁進した家康公に通じる。

「重役ともパイプを作る」という2つのことを学んだ。安定して大きな仕事がもらえている取引先ほど惰性に流れ、接触しなくなる。そんな取引先にこそ決め細やかな対応が必要と身をもつて学び、この2点を確実に押さえることでシェアを拡大した。その後、入社7年で課長に昇進。事業部次長を経て、いよいよ役員候補となつた50歳。突然大赤字の仙台事業部へ異動を命ぜられる。首都圏と違い、地方の事業部長は営業、人事、工場など全ての役割を担う。左遷では?とも噂されたが、この仙台時代で経営の基本を学び、異動から1年半で黒字化を実現した。

「組織を動かし、活性化するのは人間尊重。それは社長になった時の経営方針にもなりました」業績が悪いからこそ社員の元気が大切だ。部下の能力を120%引き出すために裏方に徹しがちで、常に冷靜に先を見据え、落ち着いて動かない。寛容でかつ、威容も持つて合わせている。確固とした信念を持つ姿は、まさに現代の家康公と言えよう。



Success Way  
浜松>>>愛知>>>静岡>>>東京>>>仙台>>>東京



トッパン小石川ビル外観

「印刷テクノロジー」を活かして、証券・カード、商業印刷、出版印刷、パッケージ、高機能部材、建装材、ディスプレイ関連、半導体関連の8部門で多彩な事業を展開する凸版印刷。常に新しいソリューションを提供し、お客様や社会の課題解決に貢献していく。

凸版印刷株式会社  
東京都千代田区神田和泉町1番地  
<http://www.toppan.co.jp/>

**PROFILE**  
凸版印刷株式会社  
相談役  
**藤田 弘道**  
Fujita Hiromichi

浜松市出身、昭和28年東京大学経済学部卒業後、凸版印刷株式会社入社。昭和55年8月同社取締役、60年8月同常務、昭和62年同専務。副社長、代表取締役副社長を経て、平成3年代表取締役社長に就任。平成12年代表取締役会長となり、平成20年6月より相談役。

**HAMAMATSU**

世界中のモーターレースファンから絶大な人気を誇る秋吉耕佑さん。その半生は、一見華やかな世界とは裏腹にアップダウンの連続だった。純粹に“走ること”を楽しんだ少年時代、仕事の掛け持ちをして夢を追いかけた不遇の日々、「韋駄天」の異名とともについにトップの座を掴んだ後の、新たなチャレンジは“異色”ともいえる婚活サロン「Me-You」オーナー…。何度も訪れた人生のターニングポイントで、自身を支え、押し上げてきた秘訣。それは、とんプラス思考に徹する“メンタルコントロール”にあった。「心をコントロールし、冷静且つ樂觀



## Success Way 久留米>>>浜松

### PROFILE

ホンダレーシング所属  
婚活サロン「Me-You」代表取締役  
トップアスリート株式会社専務取締役

### 秋吉 耕佑

Akiyoshi Kousuke

福岡県久留米市出身。鈴鹿8時間耐久ロードレース優勝をはじめ、数々の栄冠を手にする国内最速ライダー。マシン開発、スポーツ関連ブランディング会社の専務取締役、婚活サロン「Me-You」の代表取締役など、さまざまな顔を持つ。37歳。



office 25 安藤正和

今年3月、大腿骨骨折という大怪我を負い、一時は再起不能とまで言われた秋吉さん。復活の手助けとなった医学博士・末武信宏さんとの出会いも「絶対復活するんだ」という強い気持ちが引き寄せた偶発的なものだと思います」と語る。

# プラスを信じ切る力

掲げた夢は必ず実現する。プラスに徹したセルフメンタルコントロールは、天下取りに欠かせない要素だ。

時に自らを洗脳するように、人生のプロセスを導き出す。

的な自分を維持すること。それが、極限を争うレースや、シビアなビジネスの世界、サポートしてくれる仲間との繋がりなど、さまざまな場面で生きています。僕は普段の生活から『悪いことは一切考えない』『仲間のことなどとん思いやる』『夢は必ず実現する』など、人生をプラスに誘導するイメージを持つようになっています。万が一、悪い方向に進んでいるように見えてでも『悪くなってくれてありがとう』と思えば大丈夫ですよ(笑)」。

メンタルコントロールのポイントは、まずポジティブ思考に徹すること。そして『自分が心地良いと思える選択』をしていくことだと云つ。「自分を

痛めつけてまで無理することはあります。むしろ自分に最適の打開法を見つけ、それを粘り強く継続していくことが大切。僕の場合、不振に陥つてもがむしゃらに練習してはダメ。インスピレーションやセンスを信じて“心地良く”が肝になります」。自分が心地よい選択を…とはなんとも気持ちを楽にさせてくれる。秋吉さんの言葉から『信じ切ること』のパワーを改めて考察し、自身の「心地良い」方法を探り当ててみる。いずれ訪れるであろう好変化に期待を寄せて。

肴町通りに佇むうなぎの名店「うなぎ八百徳肴町店」をルーツに、いまや全国5箇所に人気店「うなぎ 德」をプロデュース。高級店ひしめく東京・西麻布から、京都高島屋、JR博多シティ、4月にオープンしたばかりの渋谷ヒカリエ工と、一筋縄ではないか高いレベルの食通たちが訪れるエリアで、浜松うなぎの美味を提供している。

味、空間、接客に至るまで、「日本一記憶に残るうなぎ屋を作る」。揺るぎないコンセプトを実現させた理由を河合さんはこう語る。「人を大切にする」と。すべてはこれに尽きます。よく『なぜこんな一等地でお店が持てるの

# すべては“人”が成し遂げる

家康公が天下人まで上り詰めた背景には、家臣の絶大な忠誠心がある。すべては「人」から一。  
株式会社 德 代表・河合毅治さんの「人を大切」にする思いとは。

か?』と聞かれますが、『これも人付き合いのおかげ。食を通じて知り合った方々と親身に粘り強くお付き合いしていくことで、自然と『良い話』をいただけようになりました』。知り合いに呼ばれ、「アジア圏内なら翌日までに飛行機に乗り込む」というほど行動派。美味しい物があると聞けば、お金に糸目をつけず、自らの舌で感じ、味を覚える。ダイナミックなコミュニケーション能力を進んで発揮することで、相手も「こいつは面白いやつだ」と好意を寄せてくれるそうだ。

お客様やスタッフに対しててもしかり。ある時は厳しく、また、ある時は親友



Success Way  
浜松>>>東京>>>浜松>>>全国



蒲焼の生命線と言えるタレは、「うなぎ八百徳肴町店」で代々受け継がれる門外不出の逸品。全國の店舗で使用するタレもすべて浜松で作っている。



肴町店は歴史を感じる佇まい。名物は、三つの味が楽しめる「お櫃うなぎ茶漬」。一杯目はオードソックスうな丼風、二杯目は葉味のせて、三杯目は葉味+お茶漬けでいただく。浜松市中区肴町312-12/053-452-1737

**PROFILE**  
株式会社 德 代表取締役  
**河合 毅治**  
Kawai Takeharu

東京・銀座の老舗会席料理店で修行した後、先々代から続く家業の「うなぎ八百徳肴町店」の店長に。32歳で「最高の場所で最高のうなぎを」という夢を実現させるべく、東京・西麻布に「うなぎ 德」をオープン。現在、全国に5店舗を開設する。

HAMAMATSU

「あつあつの揚げパンに冷たいアイスをのせる」という浜松発の新食感スイーツ・コルネット。向井さんは、女手ひとつで子どもを育て、仕事と家庭を両立させながら「アイスコルネット」という光を見出した。きっかけは、息子のために作った創作おやつ。パンの耳を油で揚げて砂糖をまぶし、そこにアイスをのせたものだった。生活苦というピンチを、起業へのチャンスに転換。今では、全国各地の委託業務店舗および車両による移動販売が20カ所以上となるまでに成長した。さらに今年に入ると、マレーシアの飲食店大手「パパリッチ社」と合弁会社を設立し、マレ

## ピンチは必ずチャンスになる

「夢」こそが、失敗や逆境を乗り切る秘訣。辿り着く直前、詰めの試練だと思えば、乗り越えられないわけがない。家康公の魂を引き継ぐ、強き女社長の目論見は日本から世界へ飛躍する。

一シアやシンガポールにも進出した。「起業してからもさまざまな試練がありました。本格的に東北地方に進出しようど、あるフランチャイズショーで多くの方々にアイスコルネットを食べていただき、2000人のアンケートを回収することができました。一緒にやりたいと言つてくださる方もたくさんいて、手応えを感じ、意気揚々としていたのですが、その翌日には震災が起きていたのです。もともとあつた移動販売車が流されたり、予定されていた全国イベントも自肅され、移動販売業としては致命的な状況に陥りました。でもコルネットを販売してくれている人たちの

ためにも、今、私が折れてしまつてはいけない、コルネットをつぶしてはいけないという強い思いだけは残っていました。その後、東南アジア進出の話が舞い込んだのです」。ピンチのあとには、必ずチャンスがやってくる。たかが1枚のバニラのみの販売対する姿勢は、まさに失敗や苦難を夢信じている。向井社長の辞書に「後退」という文字はない。彼女のビジネスに現実への活力とし、天下統一を果たした家康公と同等。スイーツ界における世界規模での天下統一も実現するかもしない。

# 続々展開中!



Success Way  
浜松>>>日本全国>>>東南アジア

### PROFILE

株式会社コルネット  
取締役社長

**向井 紫**  
Mukai Yukari

2006年、コルネットの店舗販売・移動販売を同時に開始。現在では埼玉県のイオンレイクタウンや、浜松市のブレ葉ウォーク浜北などの大型ショッピングセンター内の店舗販売をはじめ、全国各地における委託業務店舗および車両による移動販売は20カ所以上を数える。



### アイスコルネット

熱と冷という真逆の組み合わせが絶妙。子どもからお年寄りまで愛される、超B級グルメ。コルネット本店 浜松市中区八幡町71-1 053-465-3188 <http://www.coronet.jp/> ※本店はバニラのみの販売



その名は「うなぎいも」。糖度40度以上を誇るさつまいもの新品種「べにはるか」を、養鰻場などから出るうなぎ残渣※をもとに生成した「うなぎ堆肥」で育てたものを指す。浜松発の新さつまいもブランドの確立。実現させたのは、愛知県出身の伊藤拓馬さんである。

「当社が製造販売するリサイクル堆肥を活用した農業生産を目論んでいた時に、『浜松で普通に野菜を作つても注目されない。それなら浜松ならではのブランド芋を作ればいい!』と思いつきました」。伊藤さんの中で浜松と言えば、やはりうなぎのイメージ。そこで「うなぎを使った堆肥」でさつまいも

# 浜松の新名産 うなぎいも

「ご長寿将軍」として知られる家康公。

長生きの秘訣には、浜松の豊富で良質な食材の存在があったのではないだろうか。

最新の地場食材、うなぎいももまたしかり。

を作るという構想を打ち出した。

そんなうなぎいもの存在を一躍広めたのは「うなぎいもプリン」。マスコミに大々的に紹介されると全国から注

文が相次ぎ、大手ネット通販サイト総合ランディングで1位を獲得するまでになる。予想以上の反響に驚きながらも、伊藤さんはすぐに次の手を打つ。生産者、企業、個人からなるうなぎいもサポート組織「うなぎいもプロジェクト」を立ち上げたのだ。狙いは、うなぎいも栽培農地の確保と関連商品の拡充である。「うなぎいもを一人歩きさせたままでいるのではなく、うなぎいもを一緒に歩く」と、伊藤さんの挑戦はまだまだはじまりだ。



Success Way  
岡崎>>>東京>>>浜松



うなぎいもプリン 250円  
「スイートポテトのようなプリン」と形容される、うなぎいも関連の大ヒット商品。うなぎエキス配合飼料で育てた鶏卵「浜松の卵」を使っているのも特徴だ

うなぎいもの普及とともに、環境、仕事、食べ物のことを考えるサポート組織「うなぎいもプロジェクト」。頭はさつまいも、体はうなぎのマスコットキャラクター「うなも」がキュート♪  
<http://www.unagiimo.com>

## PROFILE

有限会社コスマグリーン庭好  
取締役部長

**伊藤 拓馬**  
Ito Takuma

大学卒業後、大手企業に就職するも即退社。浜松市の環境情報専門学校で自然環境やリサイクルを学び、コスマグリーン庭好に入社する。学生時代は陸上400mハードルの選手(全国優勝の経験も有)。愛知県岡崎市生まれ、34歳。

はうなぎいも畑、「浜松と言えば?」の質問にはパッと「うなぎいも」と返つてくるようなん……。そんな未来が理想ですね」。

信条は「やると決めた」とは必ずやる。例え結果が伴わなくとも、やり切ったことで気付かされることがあり、それが、次に進むべき道を示してくれます。岡崎生まれ、浜松育ち。揺るぎないビジョンに従つて、方向性を練り、柔軟な発想と堅実な実行力を行使していく。そして、また次なる一步の準備へ。『現代版・家康公』を思わせる伊藤さんの挑戦はまだまだはじまりだ。

※うなぎ残渣……うなぎの頭や骨。料理などに使われない破棄される部位

2012年4月、河合楽器製作所が発表した「PDFミュージシャン」に音楽愛好家たちが歓喜した。

PDFファイルの楽譜をiPad上で認識・表示させ、さらに自動演奏まで可能にした世界初の楽譜ビューアーアプリの誕生である。「ありそうでなかつた」この技術は、電子楽譜の普及が著しい音楽業界における新たなツールとして注目を集めている。開発の中心人物は、勝田雅則さん。学生時代にコンピュータの魅力に取り憑かれ、大金をはたいて購入した愛機で自作ソフトやゲーム制作に没頭していたという、いわゆる「コン

## “違う切り口”を積み重ねていく

家康公の天下統一には及ばなくとも、同格に近い実績は成し遂げることができる。例えば、世界初のモノづくり。「ありそうでなかつた」技術が今、音楽業界に吹き荒れる。

ピュータオタク”だ。趣味の枠内で培った知識と才能が開花したのは、今から22年前。現在も在籍するコンピュータミュージック室の立ち上げが決定した時だった。“天職”を手に入れ、充実の開発業務に従事している勝田さん。幾多の困難にも立ち向かうこととなるが、その都度、開發者らしい思考方法で乗り切ってきただと言う。「ヒントは、人と同じ考え方で満足しないこと。遠回りだと思つても、失敗する確率が高くても、とにかく人と違う切り口を試してみる。そうすれば、思わぬところで解決策が顔を出してくれます。固定的に考

えていたのでは前に進まないし、新しい物は完成しない。何かしらアクションを継続しながらというのが私のやり方です」。

52歳とは思えない若々しく温厚な風貌。そこから滲み出るのは、「好きだから」で増強されてきたエネルギッシュな野心である。「出世の街浜松」で育まれた開発者の目標には果てがない。インタビューの最後、徳川家康公について尋ねると、「大器晩成型の家康公が好き。私の開発にかける人生もそのようになれたなら嬉しい」と笑顔で語ってくれた。



iPad対応アプリで初めての、PDF楽譜を演奏できる「PDFミュージシャン」。さまざまな形態のPDF楽譜を認識でき、保存、表示、自動演奏を可能にする  
※App Storeにて配信中

### Success Way 天竜>>>浜松

#### PROFILE

株式会社河合楽器製作所 電子楽器事業部  
コンピュータミュージック室  
開発課 主監

#### 勝田 雅則

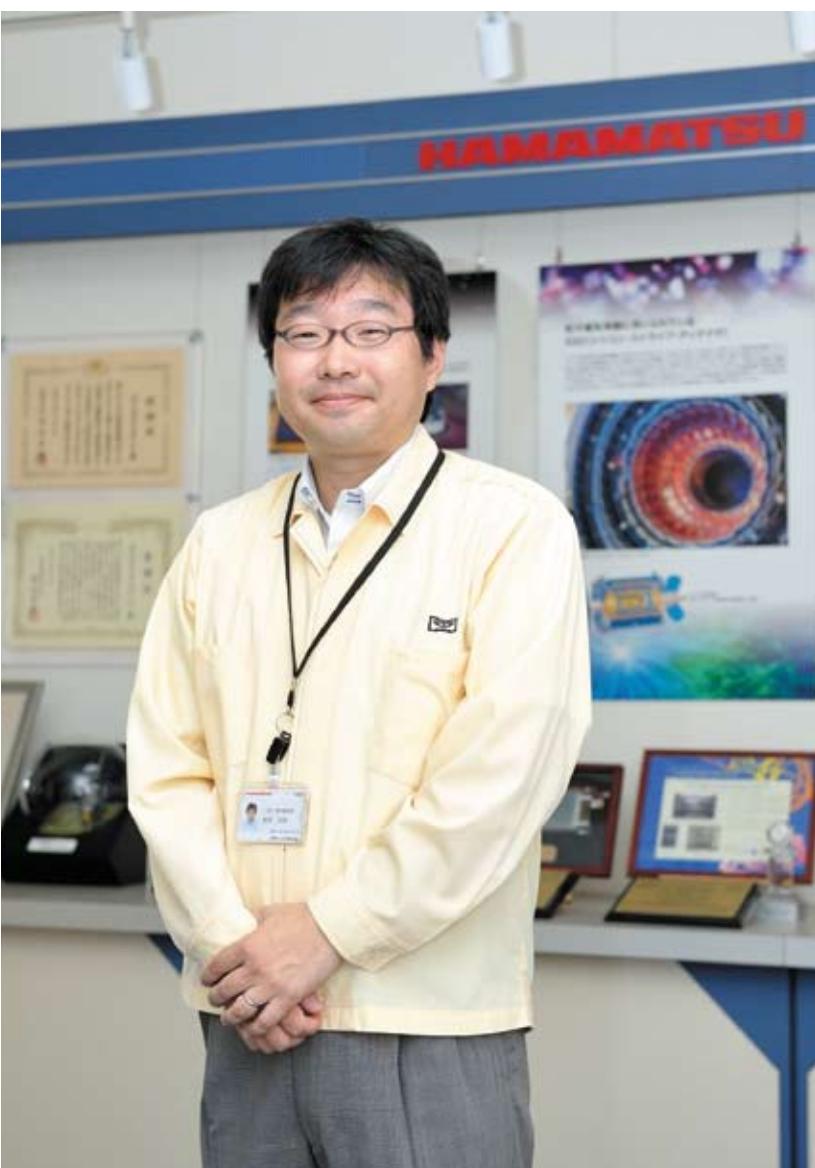
Katsuta Masanori

大学卒業後、1983年に河合楽器製作所に入社。すぐに電子楽器開発部門に配属され、電子楽器部品の設計などを担当。コンピュータミュージック室が設立されるのを機に、PCソフト開発の業務へ。天竜市(現・浜松市天竜区)生まれ、52歳。「デスクワークが多いので」と、10年ほど前から徒步通勤を実施。自宅から仕事場まで約5kmの道のりを歩きながら、開発のアイデアや業務の計画などを練っているそうだ。



アメリカ・ハワイ島にそびえ立つ世界有数の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」。鈴木久則さんは、「すばる」に採用されている世界最大のCCDイメージセンサを開発した人物だ。7年もの歳月をかけた誕生秘話から紐解く「浜木トイズム」の一片。それは驚くほどシンプルだと言える。「動いて、考えて、これでもかというくらい失敗と成功を積み重ねていく。世界最高峰を実現させるには、結局、地道な努力しかないです。開発の現場は非常にアナログな作業の連続ですよ」。

具体的な開発の経緯を伺つても、町工場の物作りのような泥臭さがある。



## Success Way 豊橋>>名古屋>>浜松



### PROFILE

浜松ホトニクス株式会社  
固体事業部 固体第4製造部  
第34部門 主任部員

### 鈴木 久則 Suzuki Hisanori

愛知県豊橋市出身。名古屋大学大学院で宇宙物理学を専攻し「CCD開発に携わりたい」との思いから、1993年浜松ホトニクスに入社。趣味は読書と野菜作り。学生時代には陸上中距離走選手としてインターハイ出場経験も。45歳。

幾多の挫折をものともせず、粘り強く、プライドを持って「前人未到」に突き進んだ家康公。その生き様は今、「未知未踏」を掲げる浜松ホトニクスとリンクする。

最適なシリコン素材を探し出すため、片つ端から部材メーカーに問い合わせる、構造の大枠が固まつたら、試作・評価を果てしなく繰り返す。気の遠くなるような作業に「担当から外してほしい」と直訴したこともあるそうだ。それでも踏みどどまつた理由は、叩き込まれた「未知未踏」の精神だと語る。『できない』といそやる』は弊社の生命線ですからね。会社としても、一技術者としてもやめるわけにはいかなかつた。冷静に考えれば、技術者としてありがたい環境ですけどね』。経験から編み出された独自の思考法も興味深い。「開発には苦労が伴います

が、それを最小限に抑え、効率化を図ることも技術者として大切なスキルです。私がよく言つるのは『結果はすでに予想できている』という思考法。結果といふのは大まかに3通りしかありません。成功・不明・失敗です。そのどれが出てきても良い様に、結果を待ちながら、次の準備を進めていくことが重要なんです』。『世にないものを』の精神を糧に、今までの10個から、一気に116個ものCCDセンサを並べた“第3世代”すばる望遠鏡主焦点カメラ。今年8月、無事ファーストライト(試験観測開始)を成功させた。

開発したCCDの解説をする鈴木さん。“浜木トイズム”継承の具体例として「既存の技術を提案する」とすぐ雷が落ちますから(笑)」と語ってくれた。

**HAMAMATSU**